飛躍するドイツの再生可能エネルギー

“地球温暖化防止と持続可能社会構築をめざして”

著：和田　武

＜内容＞

日本と似ていると言われる国の１つである先進国ドイツのエネルギーに関する市民の取り組みやそれに対する国・自治体の推進及び支援などの政策、企業の活動などを日本や他国の環境対策との比較を交えながら紹介している。

第一章ではまずドイツの地球温暖化防止とエネルギー問題の動向と政策について述べられている。その後日本との状況を正確な数字とグラフを使って説明している。また、温室効果ガス削減計画、環境税、脱原発をはじめとするドイツの環境政策についても書かれており、日本はドイツと比較して環境問題改善においてビジョンが不明確であるため、ドイツのように高く、明確な目標を持つことを最後に強く推奨している。

第二章では主にドイツの再生可能エネルギーの普及率について述べられている。また原子力発電の動向についても、他国の再生可能エネルギーの普及率、原子力発電量などと比較して、ドイツの再生可能エネルギー政策の優れている点を取り上げている。

第三、四、五章では、再生可能エネルギーの具体例として、風力、太陽光、バイオマス発電を取り上げ、普及促進の背景、実施例などを筆者独自の視点から取り上げ紹介している。

第六章では、これからのドイツの再生可能エネルギー１００％コミュニティー作りについて述べられている。ここでも様々な事例が紹介されており、ドイツがいかに再生可能エネルギー促進に力を入れているか、どれほどの成果を上げているのかについて詳しく書かれている。

第七章では、ドイツの州の一つである、シュレスヴィッヒ・ホルシュタインのエネルギー政策を紹介している。デンマークとの歴史的背景、関わりなどについて書かれ、写真などもたくさん載せられているため、非常に分かりやすい。

第八章では再生可能エネルギーの普及による CO２削減効果や産業発展とそれに伴う雇用増加、地域社会の民主化及び人間関係の健全化について第一章か

らの総まとめとして筆者の意見を交えながら述べられている。ただプラス面ばかりが取り上げられているため、ドイツに対する批判的な視点が欠けていると感じる。

最後の章では再生可能エネルギー法による環境に優しい電力利用の促進を踏まえ、ドイツの将来的な目標について説明されている。ただ本書は２００８年に出版されたものであるため、取り上げられた目標の多くが達成されている。

＜本書の特徴＞

まずグラフや写真などの資料が非常に多い。そして、章が細かく分かれており、さらにその章の中でも節ごとに分けて詳しく説明されている。各国の普及率や成果が正確なパーセンテージを使って書かれており、ドイツとの比較がしやすい。専門用語なども多く、各ページに語彙の説明が記載されている。レポート作成など、正確な数字を載せる必要があるときにとても役立つ本であるように思う。また筆者の意見がどの章にも必ず書かれている。

しかし毎回筆者は成功事例だけを挙げ、マイナス面について述べられていないため、読者は多少批判的観点から本書を読み始めた方が無難なように感じる。

全体として本書はドイツの再生可能エネルギー促進の凄さをあらゆる事例や歴史的背景に触れながら示しているものである。写真も多く使用され、文章も多少の専門用語を挟むが下部に説明がされているので読みやすく、専門的な知識がなくても簡単に理解できるように書かれているのが本書である。

（世界思想社教学社 2008 年）

演習（日独社会研究２）

紹介者：H．R.